治して行く
彩られて行く

本来であれば器の劣化や割れ目にあまり良いイメージは無い。しかし、割れた破片を漆と金で継いで補修する金継ぎと言う技術がある。土間やコンクリート壁を金継ぎを用いて補修し、新品以上の哀愁と屏風の様な美しさをもたらす。その技術を金継ぎと割れ目を合わせ、劣化の壊れを合わせて「金割れ目」と表現する。この割れ目を劣化とせず一種の美しさと表現するこの姿勢は、和の表現ではなかろうか。

金継ぎ

日本には、金継ぎと言う割れた陶器に漆と金を塗って修復し、傷そのものを美しく魅せる世界に一つしかない陶器を作る技術である。

＋

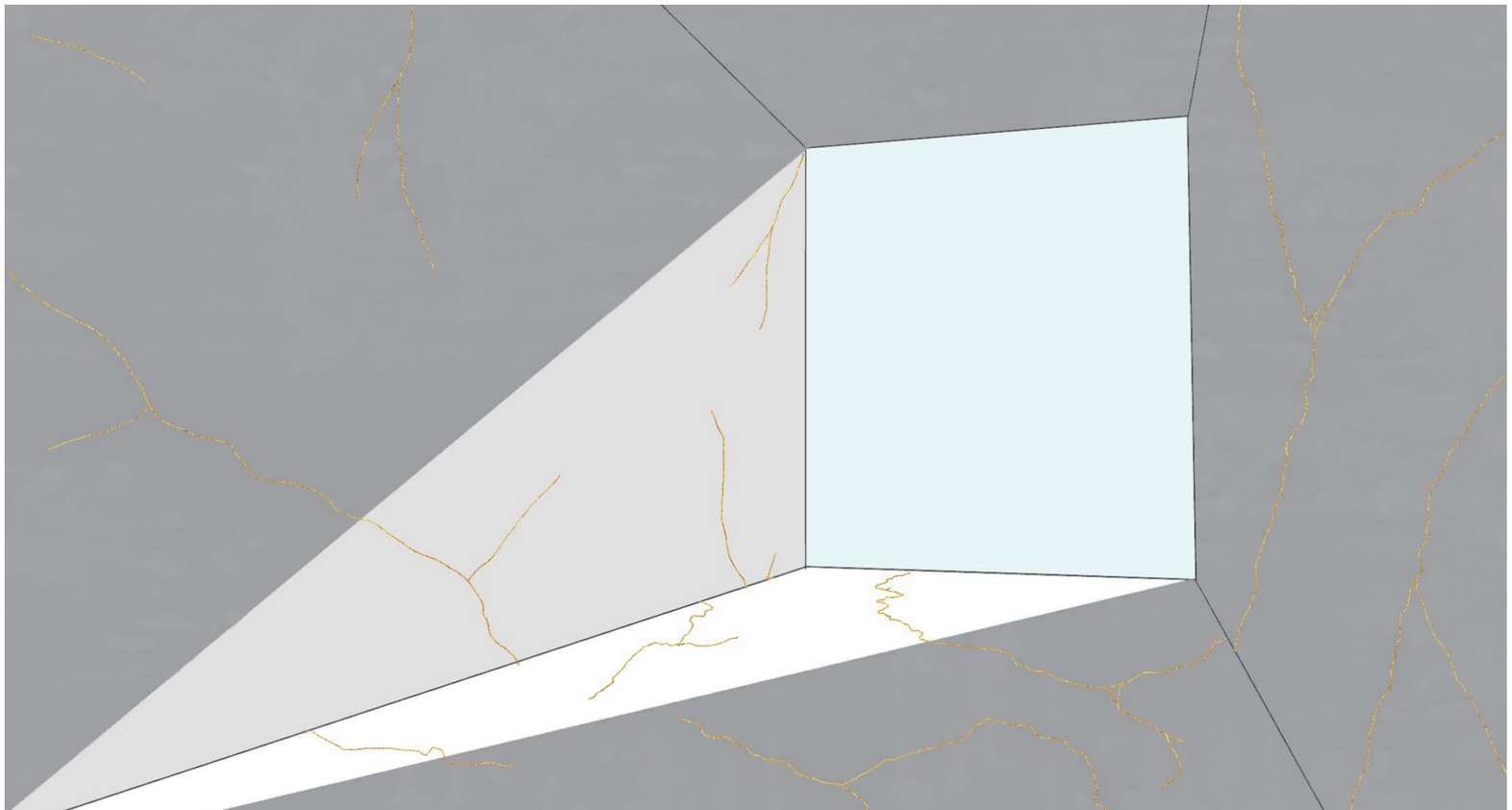
壁、土間補修

コンクリートや土間に水分が入り寒暖差でひび割れが発生する。そのひびを補修するのにモルタルを用いて埋める。

＝

金割れ目
ko wa re me

壁や土間の割れ目に、漆を塗りその上に金を張り、補修を劣化では無く美しさとして、長く使い続ける住宅の新たな魅せ方として金割れ目と名付ける。大量消費ではなく、修復し使い続ける美しさを金を用いて表現したい。

部屋を屏風に

修復は、劣化の補修ではない。金割れ目は、この住宅の一室に新しい命を吹き込み土間や壁を、どこか高貴で上品な屏風へと変化させる。陽の当たる所ではコンクリートの白さに輝きを与え、陰では、反射光を受けてひっそりと壁や床に彩りを与える。そしてこの補修は、劣化を許容すると共にサスティナビリティーに貢献する。